

# 高退協ニュース

No. 220  
2019年  
9月3日

行退協局  
高知  
高務  
高事

〒780-0850

高知県高等学校退職教職員協議会  
高知市丸の内2丁目1番10  
高知城ホール高教組気付  
連絡先 TEL 088-(822) 6822  
郵便振替口座 016500251189

## 夏季学習会報告

### カッキ(夏季)ある学習会でした

土居修

◆川淵誠司さん 「議員になつて」

◆竹嶋喜信さん 「県立学校現場」

中国・四国地方の交通網を大きく乱し、お休みのウタリランツシュを直撃した台風10号。高知県内でも農作物・畜産関係に19日現在で計9889万円もの被害をもたらしています。

その大型台風が日本海に抜けた17日の午後、高知城ホールにおいて「夏季学習会」を開催しました。参加者は学習会32名、懇親会は24名で、昨年とは同数でした。

講師と演題を  
紹介します。



川淵誠司さん  
「議員になつて」  
年余が過ぎていますが、「次の世代」を憂いながら「親難波を王にす」という熱情で第2のステージに駆け上がったのです。報告者は恥ずかしながら、地方議

会議員の義務や権利、実際の仕事などに関して全く不案内でしたが、その職責の重さとともに概要を知ることができた喜びを痛感しています。

語り口は軽妙洒脱、篤実温厚の人物にも参加者すべてが魅了され、議員としての品格の高さには会場から長歌の念さえ湧きあがりました。殊に教育問題に関する立派な見識の広さに賞嘆を漏らした



「学校現場の状況」高教組竹嶋書記長



いつも一生懸命  
司会進行 土居修さん

支援学校の児童生徒数増加に対する教育行政の対応に大きな関心が寄せられました。終了後には、三谷隆彦会長の「カッキ(夏季)」という懇親会を始めます。という珠玉の洒落で和やかな懇親会を行っていました。報告者は次の酒席に向かうため中座しましたが、閉宴まで淹判とした時間が流れたと聞き及んでいます。講演の内容は今年の『こうたいきょう』に掲載する予定であることをお約束して、夏季学習会の報告に代えさせていただきます。

### カンパニー 楽しく和やかに懇親会



## 今年の夏も やっぱり母親大会!

川村喜美

高知県母親大会と日本母親大会に参加して

昨年の8月は初めての高知での日本母親大会開催で、予定を上回る参加者に来て頂き、全国の女性たちの「高知大好き」「母親大会大好き」熱をより進化させた夏でした。今年はそのエネルギーを蓄えての高知県母親大会となりました。高知県母親大会は6月30日に高知城ホールで開催され、午前中は11の分科会があり、どの分科会も1時間時間があるほど熱心に意見交流が行われました。私は「障がいのある子どもや人々の暮らし」の分科会に参加しました。例年に増して、家族や保護者から切実な願いが切々と語られました。解決策はなかなかありませんが、高知市内への特別支援学校の新設等、多少なりとも動きが出てきています。遅々たる進度ではありますが、希望を失わずに支えあえたらと思

後に参加されたほとんどの保護者同士が自ら連絡先を交換して、ネットワーク作りをする姿も見られました。午後は榎大樹弁護士さんの「監の中のライオン」憲法ってなんだろ?」の講演でした。講演は人形を使つてのお話で、「憲法を守らなくてはいけないのは ①国民 ②権力者 ③みんなとスタートして、」の質問からスタートして、テンポよく、まるで落語を聞くかのような軽妙な語り口で、2時間半があつたという間で、「ライオン」を権力者に「憲法」を檻に例えて、横暴な権力者から国民を守るために「憲法」があることを分かりやすく話して頂きました。また、小学校の社会科の教科書に日本国憲法の説明がほとんどなく、世界のグローバル化に中軸が置かれていることに驚きました。

高知県大会の参加者は雨の中でしたが、午前と午後合わせて533人でした。8月24・25日に第65回日本母親大会がビキニ被災船第五福竜丸の母港、静岡県焼津市で開催されました。全体講演のテーマも「ビキニ被災から65年―核兵器のない平和な未来を―」富田宏治関西学院大

学教授でした。高知からはビキニ被災を教材紙芝居として作成し、各学校に寄付をする取り組みの報告もされました。2日間でのべ9000人、高知からも58名が参加し、高退協のメンバーも女性7名が参加しました。

暑い夏、各団体が全国大会だらけですが、日本母親大会も一度参加する価値はあります。来年はぜひ参加してみませんか!

哀悼  
川澤 啓三 さん  
2019年7月19日逝去  
謹んでご冥福を  
お祈り申し上げます。

## 「檻の中のライオン」

お勧めの一冊  
三谷隆彦 著

榎大樹 著 かまがわ出版

今回の参議院選で自民党は公約に憲法改正を掲げました。

私は小・中・高・大学と二応憲法については学んできました。改憲勢力三分の二を占めさせてはいけないとの決意と改正されるかもしれないとの危機感をもちました。知人や友人にハガキやメールを送り私の気持ちを訴えました。

私たちを守ってくれるとても大切な最高法規としての憲法を今

教育現場ではどのように教えているのでしょうか。そんな時出会った一冊が「檻の中のライオン」です。著者の榎(ほんどう)大樹氏は弁護士で、2013年の憲法96条改正論で憲法に関心を持つようになったそうです。各地で講演活動もおこなっています。本書は国家権力をライオンに憲法を檻にたとえ、46項目に分けてイラストつきで一般の人々子どもたちにもわかりやすく解説しています。基辛編から最近の憲法問題(96条改正

